

# 糸山河

## 第 10 号

平成9年5月15日  
発行  
社団法人 沼津牧水会

### 目 次

沼津と近代短歌	2
全国牧水サミットフォーラム	6
みちのく五所川原に 牧水の友情を思う	7
未来永劫の牧水	8
「夜とならば…」	9
第43回 沼津牧水祭	
碑前祭・芝酒盛	10
短歌大会	11
第9回 籬の歌会	12
文化講座	13
サロン音楽の夕べ	14
平成8年度事業報告	15
定款・後記	16

# 沼津と近代短歌

玉城徹

(「うた」主宰、毎日歌壇選者)

のともる見ゆ

千本松原

真心に沼津の人の護るなべ万世までもこれ  
の松原

消息の歌三月十三日久保田山百合(島木)

赤彦宛

市路ゆけばちまたちまたの垂柳皆緑せり沼  
津のはるは

伊藤左千夫は一九〇五(明治三八)年、日

露戦争のまだ終らぬ三月十一日、楨不言舎の  
招きで、沼津にやってきました。「沼津小遊」

という一連の詞書きの中に「往來の人も悉く  
和樂の色あるを覚ゆ」などと記してあります。

その晩、何人かの人々と杯を傾けたのは、  
狩野川の流れに臨む酒楼だったと言います。

一首目は、その折の風景です。「狩野川の向  
ひの里」という把握は、大まかなようで、な  
かなか要点を突いたところがあります。現在



わたしが、ここ沼津の地に移ってきて、そ  
ろそろ十年近くになるでしょう。その間に、  
色々と沼津についての知識を得ました。この  
町は、大そう複雑な歴史をもち、そして、ま  
た複雑な地形の上に立った面白い町だとい  
うことができます。

ここでは、近代歌人が沼津を歌った作品を  
少し鑑賞してみようと思います。

伊藤左千夫

狩野川の向ひの里の香貫野や春雨くらく火

香貫野の住人の一人として、わたしは、この  
歌を愛誦して居ります。

二首目の「真心に沼津の人の護るなべ」は  
むろん、挨拶の意を含むが、沼津びとの心を  
このように汲みとるところに短歌という詩の  
面目があるので、軽々に見すごせません。三  
首目は、沼津魚河岸の写真絵はがきに書いた  
歌で、即興らしい歌ですが、沼津の町の気分  
がさらりと出たところが好ましい。

若山 牧水

停車場に人を送りてかへるさの夜更けに寄  
れる酒場の三人ぞ  
いとほだらに鬢の毛白き老教授はウキスキ  
イを呼ぶわれも然かせむ  
テーブルの上に枝張れる盆栽をかたよせて  
語る夜ふけの三人

一九二二(大正一一)年作。「山桜の歌」  
所収。牧水の沼津の歌としては、少し変わった  
ものを取上げてみました。

牧水には、停車場の歌が、幾つかあります。  
多分、その気分が好きだったのでしょう。こ  
こでは、停車場まで人を送りに行つて、その  
帰りという、少し寂しく、そして何か解放さ  
れたような心もちが、まず、第一首目に出て



戦前の沼津駅前通り

きます。二首目の老教授は、あるいは、別荘住まいの人かとも想像されます。ウイスキーを注文した——多分、舶来ものでしょう——ので、自分もウイスキーにしようと言うのです。その心の動きに、何とも言えぬ親しみが感ぜられます。

テーブルの上に、梅かなにか盆栽が置かれてある。話に夢中になって、その盆栽が邪魔になってきたので、それを横の方へ押しやって、三人で語り続けるのです。何の盆栽か言

わないとところに、うま味があります。半ば無意識に片よせるのだから、ここは言わないでおくのです。それでも、漠然と枝を張った盆栽だということは、心につかむ。こういうところが、なかなかうまい。何でも、全部言えば良いというものではありません。

北原 白秋

群れつつを生簀の鯛子の片寄りにそろひさ  
走りめぐりやまぬかも

船にして網くりたたむ子らがこゑ夕焼の頃

はとみに勢りぬ

三津の浜夕さりてかた出ありくと絵を描く

友の傍に寄りゆく

一九三四（昭和九）年作。『夢殿』所収。

「沼津薺露行」と題して、「若山牧水の七周年に際し、哀傷の新たななる。遂にこの追懐吟一聯を成さしむ」と前詞にあります。今、その末尾の三首をここに挙げます。

一首目は鯛子の回遊のさまを歌う。ただ丁寧に写すだけでなく、「めぐりやまぬ」という生命のあわれを詠嘆したのです。

白秋は福岡県柳河の沖ノ端という漁師町に育ちましたから、海にはたらく人の姿は、心に親しいものなのです。そういう積み重ねが



千本浜に立つ 横山真古衣、楨不言舎と伊藤左千夫

二首目のような観察を生みました。一日の仕事の終りになろうとして、網をたたむ掛声が急に元気づいてくるのです。外から描写するという態度でなく、その声から漁師の心を感じるのです。

三首目の絵かきは義弟の山本鼎です。夕方散歩で、そのそばへふっと寄って、その絵を見るところです。自然に気分が出たところが良いでしょう。

苦しみて乗りかへを待つ沼津駅ごみの中よ  
り短き針金拾ふ

静浦を道びく者は問ふに知らず大山大将も  
その戦争も

烏瓜の紅に母を思ふこと我も運転者も同じ  
きを知る

海の上に造り出でて魚の市場ならず蜜柑積  
み出しの船つきどころ

一首目は一九四五（昭和二〇）年作。『山  
下水』所収。続く歌を見ると、文明は、この  
針金でパイプを徹したことが判りますが、今  
それは、考えないでおきましょう。この一首  
だけでも、空襲の焼け跡の沼津の空気が感ぜ  
られるのが面白いのです。

後の三首は、一九六九（昭和四四）年作、  
『続々青南集』所収。一首目、静浦には大山  
巖大将の別荘があったのだが、案内者は、大  
山大将の名も、日露戦争も知らなかったとい  
うのです。経験しなかったから知らないとい  
うのも、無理もない話だが、それは歴史に対  
する無関心ではないかという、ひそかな嘆き  
をもつて歌ったのかと思われまます。

その次は、ほつぺたの赤い、日本の田舎の  
お母さんです。群馬県と沼津と、育った地方



戦前の千本浜公園

は違っても、カラスウリから、お母さんを連  
想することは同じだと判ったのです。「運転  
者」であつて運転手ではない。こういうところ  
は、正確に読み味わい、自分が作る場合に  
も、注意する必要があるでしょう。

第三首目は、今でも西浦に行くと思られる  
光景です。「造り出でて魚の市場ならず」と  
いう簡潔な把握は、そうやすやすと出来るも  
のではありません。

老松の木深き奥に潜むごと低き屋根見ゆ住  
む人や誰

駿河湾うみと陸とが相依りて多かく弧なが  
し末はおぼろに

横向きに海みるからす然せずば実にも見え  
ざる目をもつ鴉

一九五一（昭和二六）年作。『卓上の灯』  
所収。八月上旬、御木氏の客となったことが  
前詞にあります。一首目は、いかにも千本浜  
あたりらしい情景。「住む人や誰」と空想し  
たところが、空穂という作者の本領なのです。  
これで景色が人間味を帯びてきます。二首目  
は、誰でも知る風景です。「うみと陸とが相  
依りて描く弧」というつかみ方が、この一首  
の生命ですね。

三首目は、なかなか変つた歌です。鴉が浜  
に、海に対して横向きにいる。「海をみる」  
のかどうか知らないが、作者が、そのように  
鴉をとらえるのです。そして、心の中で、  
「なるほど、鴉のやつはそのようにしなけれ  
ば見えない眼をもつやつなんだ。」と思つて  
おかしくなつたのです。理屈なんかで言うの  
ではありません。ふつと思つたのです。その奥  
に、万物みな、自分の運命を負うという、空

穂の哲学が見えてきます。

玉城 徹

かがやかに寄する白波長浜にところかへつ  
つ打ち上がる見ゆ  
みなみの風押し来てやまず立てる身は防潮  
堤を吹き落ちぬべう  
ひばりの音そらに満つるを縫ふごとくセツ  
カ鳴くなりひねもす浜に



戦前の千本浜海岸と富士山

一九九〇（平成二）年作、『窮巷雑歌』所収。

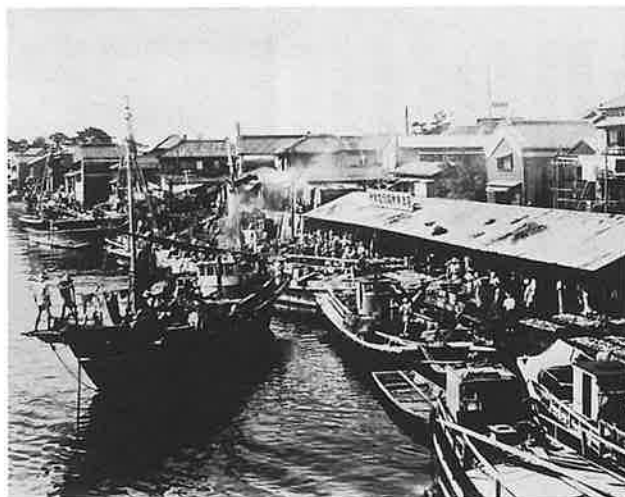
沼津の土地の恩恵を蒙る一人として、わたしも、ここに仲間入りさせて貰う資格があるでしょう。わたしは、初め原に近い大塚に数年住みました。この三首は、あのあたりの海浜風景です。

一首目、晴れた日で、長浜のあちこちに大きな白波が上がり、その間に小さな白波が上がる。きまつた順序でなく、乱れて上がるのです。波動というより活動の構造に興味をもつて見たのです。

二首目は防潮堤。これはまだ誰も歌わなかつたものです。南風の強い日は、本当に吹き落ちそうになる。「べう」は「べく」です。「馬より落ちぬべう」などと戦記物語に出てくる。

沼津に来て、わたしは、初めてセツカという鳥を知った。海浜の草原や、狩野川の川原に棲む鳥で、ピツピツと鳴きながら空へ昇り、降りる時は、チャツチャツと鳴き方を変える変った鳥です。ひばりの声はやむ時なく空にきこえる、その間を針で縫うようにセツカの声がきこえるのです。これも、そういう音の作る構造を把えたものです。

\*



昭和初期の魚町付近、にぎわう魚河岸

同じ沼津でも、作者によって捉える場所、見る角度が違います。これは、けつして「個性」の違いではありません。文学についての考え方が異なるのです。わたしは、あれもこれも同等に良いなどと言うつもりはありません。「個性」を唱える人は、どれも「個性」だから、皆、同じ価値をもつと言いたがるのです。「個性」などを越えた文学の考え方があり、それぞれの修行があつて、あれこれの達成があることを見て頂きたいのです。

# 全国牧水サミットフォーラム

青森県五所川原市  
平成八年八月二十三・四日

若山牧水の歌碑の所在する市町村の首長、教育長並びに縁のある方々が集い、歌人若山牧水の魅力と人生を探求する「全国牧水サミットフォーラム」



津軽の地五所川原市で開催された。五所川原市は、牧水の友人和田山蘭、加藤東籬の故郷である。大正五年と十五年の二回当

地を訪れている牧水は、歌会を開いてこの地の文化人たちと交流を深めた。

牧水が和田山蘭に宛てた二百十通の書簡が、平成六年にご子息和田現氏から五所川原市に寄贈され、陽の目をみた。この牧水書簡が世人の話題となり、牧水顕彰の気運が盛り上がった。この牧水サミット開催である。

サミットフォーラムには、「オルテンシア」と名付けられた立派な市のホールに県内外から多数の参加者が集い、短歌大会表彰式、牧水長男若山旅人氏による記念講演が行われた。そして若山旅人（沼津市若山牧水記念館館長）、和田現（山蘭次男）、渡辺邦彦（東郷町教育長）、林茂樹（沼津牧水会理事長）、藤岡武雄（日本大学教授）の諸氏がパネラーとなり、白田昭吾氏（弘前大教授）の司会で、「現代に生きる歌人牧水 そして山蘭、東籬との友情」と題するディスカッションが催された。

フォーラム閉会后、参加者一同は、市営牧



五所川原市の牧水歌碑

水公園を散策しながら八幡神社境内の小高い丘に建つ牧水歌碑前に移動。中学生、高校生多数の献花に続き、牧水歌碑への献酒を行った。

岩木山を望む津軽の五所川原市は、人口五万人。全市を挙げての「全国牧水サミットフォーラム」は、各地からこの地に参集した牧水関係者にさわやかな印象を与えた。

（事務局・柴田昌明）

# みちのく五所川原に 牧水の友情を思う

沼津市教育長 五月女 武



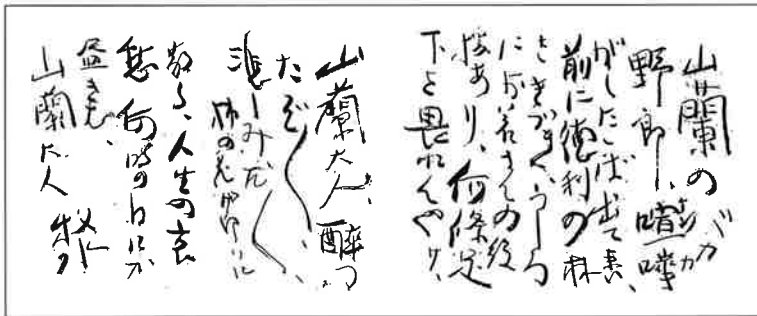
を訪れました。馬から降りるなり、求められるまま即座に認めたのが、次の一首だそうです。

牧水の百十一回目の誕生日に当たる八月二十四日、青森県五所川原市主催の全国牧水サミットフォーラムにお招き頂きました。当市は、牧水と親交の深かった歌人和田山蘭、加藤東籬を生んだ所であり、山蘭御二男、現氏が、明治末以来山蘭に寄せられたあまた文人の夥しい書簡を平成六年に公表されました。その中に山蘭とのただならぬ交わりを具に示す牧水の書簡が何通も出てきたのでした。

牧水は、大正五年馬橋には遅い三月末日、初めて馬に乗り四里の雪融道を辿ってこの地を訪れました。馬から降りるなり、求められるまま即座に認めたのが、次の一首だそうです。

ひつそりと馬乗り入るる津軽野の  
五所川原町は雪小止みせり  
達筆な山蘭の揮毫になるこの歌碑は、昭和二十七年土地の青年有志によって建立されて今日に至っています。その有志のお一人が、現市長の佐々木栄造氏であり、今回の全国牧水サミットのホストを務められました。

この度の牧水サミットフォーラムの庄巻は、牧水御長男旅人氏と山蘭御二男現氏の初対面ではなかったかと感じております。牧水・山蘭の互いに齒に衣着せぬ厳しい歌人同士の本音の親交から、実に八十年のときを隔てて両雄の御息同士がここに堅い握手を交わされたのでした。そしてお二方から、それぞれに父を語る真実とその思いの深さをうかがい、参加者一同、感動ひとしおの時を過ごしました。文学をとおして時空を越えた人と人との心のつながりの深さを思い知らさ



山蘭に宛てた牧水書簡



若山旅人氏と和田現氏御夫妻を囲んで

れたのでした。

ちなみに、この事業を記念して募集された短歌一般の部天位入選作は、次の一首でした。

雪の野を友に逢はむと牧水が  
馬に乗り来しロマンを思ふ

公務のため、一人だけ早目に帰泊する私のために、牧水公園を案内し、空港まで車をとばして下さった職員の方の熱い人情にも触れました。

# 未来永劫の牧水

渡邊邦彦  
(宮崎県東郷町前教育長)



全国の注目を集めていた第一回若山牧水賞(宮崎県・宮崎日日新聞社・延岡市・東郷町主催)の受賞作に高野公彦氏(千葉市在住)の歌集『天泣』が決まり、表彰式が去る一月二十九日、宮崎市で行われた。

この『牧水賞』の創設を祝して沼津牧水会の林茂樹理事長さんの喜びの声が宮崎日日新聞の元旦号に掲載された。

表彰式当日は林理事長さんと柴田事務局長さんが出席され嬉しい限りであった。

表彰式では約六百人の出席者の前で松形県知事が直接高野氏に表彰状を授与した。

表彰式に続いて大岡信氏が『牧水が立派だったこと』と題して記念講演をしたが、同氏は「今の世の中は自分が美しいと思ったらそ

の理由を自分で納得しないと済まない世知辛い世界だから、牧水のような風通しのいい歌は一時期忘れられていたこともあった」と言い、更に「牧水のように胸を開いて自然界を自分の中に入れ、見せてくれる歌人はいなくなつた。牧水は過去の人だけれど、そういう意味で実は未来の人だ」と結んだ。

講演のあと会場を移して開かれた祝賀会は、もちろん受賞を祝い、『牧水賞』の創設を祝しての宴であるが、時間の経過とともに場内は『牧水を賛美する会』と化していった。

この日、来賓としてご出席の旅人さんもご満悦そうで、出席者に囲まれながらカメラのフラッシュを浴びておられた。林茂樹住職の和服姿は今や日向路ではすっかりおなじみになってきているが、柴田さんを従え沼津大使の責務を果たすべく精力的に各テンプルを巡回しておられた。私の近くにいた男性が「ますます牧水は名実ともに国民的歌人ですね」とグラスをかかげて寄って来た。私もグ

ラスを高々とかかかげて乾杯した。

ところで、沼津牧水記念館も今年の秋、開館一〇年を迎えられる。ご同慶の至りである。同事務局より発行される会報『幾山河』も毎号東郷町にもご送付いただき有難く拝見しているが、その充実した内容に感服し、同館を拠点として地域における文化の振興に大きな役割を果たされている状況がうかがえ、当方も啓発されるところ多大である。昨年発行の第九号の編集後記で事務局長さんは「お一人お一人の心と心を結び合つて、開館一〇周年を飾りたいと願っている」と記されているが、この節目の年を期に沼津牧水会の益々のご発展を祈つてやまない。

〈御礼〉

私こと

昨年九月末をもって東郷町教育長(兼東郷町牧水顕彰会事務局長)を退任いたしました。

一三年間の勤務でしたが、この間沼津市ほか関係の皆さんに大変お世話になり心から感謝しています。牧水を縁に多くの方々にご邂逅できたことは、私にとって大きな幸せでありました。ご厚情に深くお礼を申し上げます。皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。お礼の言葉といたします。





(社)沼津牧水会理事 川口和子

それは、もう二十数年ほど前の、未だ石油ショックの余燼が燻っていて、何となく社会の夢想も沈滞気味に感じられる頃のことであつた。

水雨の降りつづく、或る侘しい冬の夜、けたたましく我が家の電話が鳴り響いた。

声の主は、活き活きと弾んだ調子の、温古堂田中旭さんであつた。

「ちよつと見せたいものがある。今日、手に入つたばかりなんだ。すぐ持つて行く。」

やがて勢いこんで田中さんが持ち運んで来たのは、木箱入りの立派な表装仕立て、牧水の短冊であつた。

朱に金粉を散らした華やいだ感じの短冊に書かれていたのは、

夜とならばまた来て宿れしのゝめの

みね離れゆく夏の白雲

牧水

今まで私が見慣れていた柔らかな牧水の筆遣いと、やや趣の違った感じであつて、端正で品があり、しかも筆に勢いの乗つた文字であると思つた。署名もしつくりと整つた印象をうけた。

田中さんは、

「今日、仕事で東京に行つたんだが、全くの偶然、この短冊を見付けたんだ。その時、さつと閃いた。閃いたのはあんただよ。あんたは、これを持つのにふさわしい人だと直感した。こういう品は、めつたに出ない。」

と、一気に話しつづけて、

「もう、商売ぬきで持つて来たんだ。代金なんて、いつでもいい。書というものは、ふさわしい人のそばで坐るべきだよ！」

満面の笑顔でまくし立てて、短冊入りの箱を置いて、さつと帰つてしまった。

その道の商売の達人に、見事のせられた恰

好で、あつけに取られた私だったが、心を落ちつかせ、半ば納得させられつつ、その短冊を暫く家に掛けていた。

そんな経緯があつて購入した短冊なのだが、その後に、温古堂田中旭さんも故人となり、昭和六十二年に牧水記念館が開館したのを潮に、記念館に寄贈させていただいたという訳である。

この歌は、牧水歌集『さびしき樹木』のなかに載っている。

さらに、大正十三年に牧水は自歌自釈として、自身で、こんな解説を書いている。

『オ、オ、

しきりと雲が峰から離れて、明けそめた朝の空へと昇つてゆく、雲よ雲よ、夜になつたらまたしつとりとこの山におりて来いよ、とすがすがしい夏の朝の雲に向つて呼びかける心持の歌』と。



筆者



故田中旭氏

# 第43回 沼津牧水祭

## 碑前祭・芝酒盛

十月二十七日  
午前十一時

毎年盛大に催される沼津の秋の風物詩、第四十三回沼津牧水祭は、秋晴れの下、千本浜公園牧水歌碑前に八百五十人もの参加者が集い、午前十一時賑やかに開催された。

高橋忍沼津市助役、宮代義幸沼津市議会副議長、五月女武沼津市教育長の各来賓と斉藤滋与史前静岡県知事をはじめ多数の参加者の前で、当記念館館長の若山旅人氏が歌碑に献酒して式が始まった。

芝生の舞台での花柳稔師匠の舞踊、千本コーラスによる牧水の歌の合唱、沼津松波会煙火太鼓、裾野五竜太鼓が次々と披露され大いに盛り上がった。今年初参加の県立沼津盲学校生徒さんによる太鼓演奏にも一際大きな拍手が寄せられた。

地酒の原酒牧水がふるまわれ、焼鳥、おでんを着に芝生の上では楽しい語らいが繰り広げられ、例年協賛のブルーシーさんの清涼飲料、珈琲館さんの立て出しのコーヒー、東海庵さんの野点席も大人気で、満面の笑顔が秋の日溜まりの芝生にこぼれ、午後三時頃まで芝酒盛は盛大に、内容豊かに続けられた。

なお、第七回中学生短歌コンクールの表彰もおこなわれた。



# 短歌大会

十月十三日(日)午前十時  
千本プラザ 音楽ホール



講師：三枝昂之氏（りとむ）

十月十三日(日)に沼津市の千本プラザ音楽ホールに於いて、恒例の牧水祭短歌大会が行われた。今年度は講師に「りとむ」の三枝昂之氏をお迎えしての大会で、歌数二六一首、参加者二〇〇人になんなんとする盛会であった。三枝昂之先生には前例に倣って、午前一時間の講演をお願いし、午後は出席者の作品の短評をしていただいた。講演は戦後五十

年を振り返り、昭和二十一年から発生した第

二芸術論を契機とした短歌バッシングにまず触れ、その五十年前は新しい短歌誌の発足の年でもあったと、「まひるの」「古今」「沃野」「新日本歌人」などの発足に言及し、そこから転じて、現代の歌壇の特質の一つ、高齢化の問題について、いたずらに高齢化を嘆くのではなくて、その世代でなくては歌えない

「若い」をテーマにした作品が今こそ求められるのではないかと話された。御多分に洩れずやや高齢気味の牧水短歌大会の参加者にとつては、良い応援歌でもあり、難しい課題の投げ掛けでもあったろうか。以下牧水賞の作品と互選の高位何首かを紹介して報告に代えたい。

## 三枝昂之氏選（牧水賞）

栄耀の裏側のやうな手ざわりに枇杷一顆刻く  
枇杷の木の下の 清水市 久保田たか子  
お見せする物はなんにも無い家の自慢は窓の  
大き落日 沼津市 石川つや子  
峡の田に一人田草を取る吾に風は時折人声は  
こぼる 大仁町 山中さち子

## 互選上位作品

ピアスせし少年の大工らはつらつと長き角材  
担ぎゆきたり 沼津市 柴田 昌明  
言いたきこと堪へるに馴るるかこの夕べ乾反

る昆布をびしびしと折る

平塚市 香川 敏子  
思ふこと言ひ得ぬいらだち身障の子は手を胸  
に我をみつむる 大仁町 室伏 侑  
われは今いかなる顔にあるならむ方便の嘘ひ  
とつ言ひたる 沼津市 桜井 光子

一人子が共に暮らさず嫁ぐとふ離れゆく舟繫  
ぐ杭なし 静岡市 三枝 理作  
誇りもち逝きたきものと願いつつ九十一歳今  
日の息する 御殿場市 菅沼 高嶋

切れそうで切れない絆寄り添ひて夏の夜に食  
む固めのパスタ 沼津市 林 和  
草のあく滲みたる指を気にしつ古典講座の  
席にわが居り 富士宮市 小松 和子

駅前の道の段差を探りつつ盲目し夫婦バスに  
向かへり 沼津市 佐藤 光敏  
膝にきて見上ぐる孫の瞳のすずし如何なる未  
来この子らを待つ 沼津市 石塚 哲

残り蚊が訪いくれしさえいとおしく行方見守  
る真夜の病室 静岡市 橘 初枝  
走り去る電車の瞬時真夏日の光さへぎり遮断  
機上がる 修善寺町 森嶋八重子

初めてのひまご抱きたる我が胸に赤子の鼓動  
が微か伝わる 沼津市 市川 やす  
汗垂りて墓地の雑草引きぬたり父はは見ませ  
われも老いたり 静岡市 佐々木房子

# 第九回 雛の歌会

平成九年三月二日(日) 午後一時半  
沼津市若山牧水記念館会議室

講師 日野 きく 氏



(注)沼津牧水会主催の雛の歌会が今年も三月二日の日曜日に行われた。今回で九回を数えるこの雛の歌会は、春の風物詩的な催しとして定着して来た感があり、賑やかに行われた。講師は「短詩形文学」の日野きく先生。日野さんとは、かつて積惟勝先生がご健在の頃、駿海荘で行われた「東海短歌会」と「短詩形文学」との合同研究会で出会った事があり、懐かしくお迎えしたのである。

雛の歌会は、当日出席することを前提とした会で、出席しなければメリットも少ない訳だが、短歌新聞紙上に公開されたためか各地

からの投稿が多数あり、作品数も八十八首に上った。会場の都合からどうしたものかと案じたが、当日の出席者は五十三名で、最適の歌会となったと思っている。八十八首中、日野先生が選んだ歌五首とその評は、次のとおりであった。

風すさぶ東寺の市の日だまりに紅の小袖の雛たち給ふ 渡辺たつ子

すさぶは少しおおげさか。しかし饒舌でないところがいい。

生も死も明日は思わず老いの日々心はずませ古毛糸あむ 望月 元

けなげさに打たれる。老いへの理想の姿がここにある。素直に心を出している。古毛糸ではない方がいい。

噛むごとく寒九の水は飲むべしといひあし父のその齡越ゆ 神林 敏夫

父の思い出。古い時代の文化の継承で、父を詠むのは難しいがうまく歌っている。寒九の水が効いている。噛むごときの具体がいい。

みどり児の湯浴みをすませ手渡せば搗きたての餅のあがりの如し 小池みよ子

あたたかい実感がある。下句、搗きたての餅あがれる如しと単純に。

喜志子夫人幾山河の碑に酒かけ給ひし姿目に見ゆ 川村 秀男

思い出の作品として過不足なく表現されている。福岡県大牟田市の方の作品。

出席者の作品について短い批評を加えられたが、表現に則して的確に具体的に評され、参会者にとっては非常に益するところの多い会であった。批評の大筋は、説明過多の部分の指摘で、例えば、「はるかなる幼き日にはものなくて母とつくりしひななつかしき」という作品に対して、「はるかなるは饒舌、ものなくてはとほしくてと受け、はぎれに作りしと具体的に」とか、「悲鳴にも似たる思いに吹き来たる…」の思いは「悲鳴にも似たるひびきに」と説明でなく…など丁寧な批評で説得力があつた。諧謔まじりに、しかもある意味ではきびしい批評で、さわやかでもあつた。「悠然とシルバースhirtに座りこむ茶髪学生の腕輪が光る」の腕輪に触れて、腕輪の見にくさ、それより例えば「ピアスが光る」としてしまふ工夫、事実と真実の違いについての表現など、うなづく顔が多かつた。

最後は講師の提案で、参加者全員が紹介され、その際、自作についての意見もいくつか出され楽しく終了した。春三月の若山牧水記念館は、春風駘蕩、ほのぼのとした一時であつた。(須永秀生)

# 文化講座

第2回

## 「素晴らしい故郷 沼津を語り・歌う会」

“若山旅人館長 父牧水を語る”

日 時：平成8年6月2日(日)  
午後1時30分～午後3時30分

会 場：記念館会議室

参加者：50人

共 催：千本をよくする会



若山旅人氏と長女榎本篁子氏



「椰子の実」や「海」などの懐かしい歌を全員で歌って楽しい集まりとなった。

## 「牧水記念館短歌会」

日 時：平成8年4月～平成9年3月  
毎月第2土曜日 午後1時30分～

会 場：記念館会議室

参加者：延べ165人



講 師：須永秀生氏



熱心に聴講するみなさん

参加者は、毎回1～2首の短歌を作って講師の指導を受ける。

（ご好評をいただき、今年も継続して開催する予定です。）



撮影  
伊藤千里



撮影  
伊藤千里



撮影  
伊藤千里



撮影  
伊藤千里



撮影  
伊藤千里



# サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジにて



- 第1回 『日本のギタリストIV 鈴木大介』  
日 時：平成8年5月18日(土) 午後6時  
出 演：鈴木大介(ギター) 岩佐和弘(フルート)  
来場者：70人
- 第2回 『数住岸子+寺嶋陸也』  
日 時：平成8年6月24日(土) 午後6時  
出 演：数住岸子(ヴァイオリン) 寺嶋陸也(ピアノ)  
来場者：90人
- 第3回 『佐山真知子+志村 泉』  
日 時：平成8年9月7日(土) 午後6時  
出 演：佐山真知子(ソプラノ) 志村 泉(ピアノ)  
来場者：100人
- 第4回 『渡辺香津美バースデー・コンサート』  
日 時：平成8年10月12日(土) 午後6時  
出 演：渡辺香津美(ジャズギター)  
来場者：120人
- 第5回 『クリスマスコンサート』  
日 時：平成8年12月8日(日) 午後6時  
出 演：佐藤允彦(ピアノ)  
峰 厚介(テナー・サクソ)  
桜井郁雄(ベース)  
来場者：130人
- 第6回 『御喜美江アコーディオンコンサート』  
日 時：平成9年3月22日(土) 午後6時  
出 演：御喜美江(アコーディオン)  
ペアーテ・ツェリンスキー(クラリネット)  
ダヴィド・スマイヤーズ(クラリネット)  
来場者：110人



## 開館10周年記念スペシャルコンサートのご案内

- 平成9年8月3日(日) 京谷弘司カルテート・タンゴ
- 平成9年11月15日(土) 三人のギタリストによるトリプルバトル

6月1日前売り開始!!

# 平成 8 年度事業報告

総会 (第10回)	平成 8 年 4 月 26 日(金)	午後 6 時～7 時	
理事会	第 1 回 (通算 51 回)	8 年 4 月 13 日(土)午後 6 時～7 時 30 分	館報発行
	第 2 回 ( // 52 回)	8 年 5 月 12 日(日)午後 6 時～7 時 30 分	第 17 号 8 年 12 月 15 日
	第 3 回 ( // 53 回)	8 年 6 月 2 日(日)午後 6 時～8 時	第 18 号 9 年 3 月 20 日
	第 4 回 ( // 54 回)	8 年 7 月 1 日(月)午後 6 時 30 分～8 時	会報発行
	第 5 回 ( // 55 回)	8 年 8 月 31 日(土)午後 6 時～7 時	第 9 号 8 年 5 月 15 日
	第 6 回 ( // 56 回)	8 年 10 月 3 日(木)午後 6 時 30 分～8 時	
	第 7 回 ( // 57 回)	8 年 11 月 26 日(火)午後 6 時～7 時 30 分	
	第 8 回 ( // 58 回)	9 年 3 月 1 日(土)午後 6 時～7 時 30 分	

## 1 調査研究事業

- (1) 「東京牧水会」への参加
  - 期 日：平成 8 年 11 月 10 日(日)
  - 場 所：東京都二子玉川 牧水歌碑前
  - 参 加 者：青木理事 柴田事務局長 磯崎剛会員
- (2) 五所川原市「全国牧水サミットフォーラム」への参加
  - 期 日：平成 8 年 8 月 23 日(金)～8 月 24 日(土)
  - 場 所：青森県五所川原市
  - 参 加 者：五月女沼津市教育長 林理事長 柴田事務局長
- (3) 宮崎県若山牧水賞授賞式への参加
  - 期 日：平成 9 年 1 月 29 日(水)～30 日(木)
  - 場 所：宮崎県宮崎市
  - 参 加 者：林理事長 柴田事務局長

## 2 第43回沼津牧水祭の運営

- (1) 短歌大会
  - 日 時：平成 8 年 10 月 13 日(日) 午前 10 時～午後 4 時
  - 会 場：千本プラザ 音楽ホール
  - 講 師：三枝昂之氏
  - 応募短歌：261 首
  - 参 加 者：200 人
- (2) 碑前祭・芝酒盛
  - 日 時：平成 8 年 10 月 27 日(日) 午前 11 時～午後 3 時
  - 会 場：千本浜公園 牧水歌碑前
  - 参 加 者：850 人

## 3 文学講演講座の開催等

- (1) 講 演
  - 「素晴らしい故郷 沼津を語り・歌う会」
  - 日 時：平成 8 年 6 月 2 日(日) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
  - 会 場：記念館会議室
  - 参 加 者：50 人
- (2) 短 歌 会「雛の歌会」
  - 日 時：平成 9 年 3 月 2 日(日) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
  - 会 場：記念館会議室
  - 講 師：日野きく氏
  - 応募短歌：88 首
  - 参 加 者：53 人
- (3) 牧水記念館短歌会
  - 日 時：平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月 毎月第 2 土曜日
  - 会 場：記念館会議室
  - 講 師：須永秀生氏
  - 参 加 者：延べ 165 人
- (4) 第 7 回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
  - 募集期間：平成 8 年 5 月 20 日(月)～7 月 20 日(土)
  - 応募短歌：1,556 首 (11 校 1,556 人)
  - 入選短歌：55 首 (55 人)
  - 表 彰：平成 8 年 10 月 27 日(日)
  - 沼津牧水祭碑前祭にて

## 4 音楽イベント 「サロン音楽の夕べ」 牧水記念館ラウンジ

# 社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

第一条 この法人は、社団法人牧水会という。  
 第二条 この法人は、事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。  
 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短歌文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。  
 第四条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。  
 (1) 歌人若山牧水に関する調査研究  
 (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営  
 (3) 文学講演会及び文学講座の開催  
 (4) 文学に関する各種出版物の刊行  
 (5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託  
 (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

## 第五条

(1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は法人  
 (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は法人  
 (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、総会の議決をもって推薦された者

## 第六条

会員にならうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

## 第七条

(1) 正会員 一〇、〇〇〇円  
 (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上  
 2 この法人の会費は、次のとおりとする。  
 (1) 正会員 年額 五、〇〇〇円  
 (2) 賛助会員 年額 一〇、〇〇〇円以上

〈理事長〉 林 茂樹  
 〈副理事長〉 大河原二郎 杉山 光男  
 〈理事〉 佐藤英之助 河本與司幸 浅井 治 保坂 輝夫  
 田中 和男 寺田 桂子 川口 和子 青木 朝子  
 須永 秀生 金子 安夫  
 監 事 四方 一瀧 八十濱俊一

## 編集後記

会報作りも三回目となった。事務局として短歌の「短」も判らぬではと企画した「初心者のための短歌教室」の参加者の中から、沼津牧水祭短歌大会の入賞者を出すまでになり、須永秀生講師の指導力に感動を覚えている。

毎日歌壇選者玉城徹先生の香貫のお宅で、奥様から美味しいコーヒーをいただき、「沼津と近代短歌」の原稿を頂戴した。昨年、無理を承知でお願いした企画を快くお受けいただき、しかも約束の期日も一日と違えず執筆してくださった。

沼津ッ子でありながら「セツカ」という鳥を知らなかったが、先生の玉稿からこの鳥の存在を知った。先日千本浜の長谷寺近くを散策中の先生に偶然お会いし、先生の自然に対する鋭い観察眼は、日頃の散策の中から培われたものであることを実感した。

牧水生誕の地、宮崎県東郷町の渡邊邦彦先生からは、牧水の「熱烈ファン」としてのメッセージをお寄せ願えた。

(注)沼津牧水会理事川口和子氏からは、開館当初にご寄贈いただいた短冊入手の経緯を温古堂田中旭さんの思い出とともに綴っていただいた。ありがたいと思っ

ている。  
 さて、秋に予定する展示替えのシンボルとなる牧水旧居のミニチュア復元模型の製作に、一級建築士石川學氏とスタッフの皆さんが総力を上げています。

まもなく開館十周年を迎える記念館の運営にこれまで以上のご支援、ご協力をお願いしたい。

(柴田昌明)